

## 縦軸と横軸が交わるとき A 面

福島県新地町立尚英中学校 八木一真

東京都北区立飛鳥中学校 本田大輔

### 1 交流授業の実現



上の写真は、2024年7月11日の尚英中学校3年2組の英語の授業風景です。

生徒たちはヘッドセットを付けて誰かと会話をしているようです。

その会話の相手は、外国人でしょうか。

会話の相手は、東京都北区立飛鳥中学校の本田大輔先生が担当している3年生です。

この日生徒たちは、各々の用意したマッピングを見ながら、修学旅行で体験したことを相手にレポートしました。

ある生徒は笑顔を見せながら、またある生徒は緊張した様子で。

画面に映る相手に語り掛けるように、修学旅行の報告をしていました。

相手のレポートの場面になると、生徒たちは真剣にノートにメモを取り始めました。

各々がマッピングを駆使しながら、発言を整理していました。

しばらくして手が止まると、生徒たちはメモを見ながらコメントや質問をし始めました。

“If I have chance to go there, what do you recommend?”

“I envy you because I’ve never been to Kiyomizu-dera temple before.”

“Did you take a picture with foreign tourists?”

生徒たちはこれまでの学びを生かし、相手との会話を楽しんでいるようでした。



交流授業が終了すると、生徒たちは真剣に振り返り用紙を書き始めました。

生徒たちはどのような振り返りを書いていたのでしょうか。

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ（自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンラインで実施する）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

(尚英中 A さん)

英語で一番楽しいのは、やっぱり対話やコミュニケーションをとることだと改めて気付かされた。対話をするには即興性が求められて難しいけど、声のトーンとか話速スピード、ジェスチャーなどを工夫することでお互いを尊重しながら話せることが大事だと思った。今まで授業でやったことが全部役に立ったから、もっとがんばろうと思った。

(尚英中 I さん)

同じ学校の人ではなく、初めて話す人と1対1でやることで緊張感を持つことができ、良い経験になりました。また、この授業を通すことで、自分の弱点を知るきっかけになり、これからの英語の勉強につながらなければいいなと思います。

離れた土地に住んでいる同学年のパートナーと交流授業を行うことは、生徒たちにとってまさにレアアになっていたのです。

では、この交流授業はどのようにして実現したのでしょうか。

## 2 交流授業が実現したきっかけ

「本田先生、来年はお互いの教室をオンライン授業でつなぎましょう」

昨年度、卒塾を前に本田先生と私は、オンライン塾での学びをお互いの教室で具現化することを約束しました。

第3クールに同じ班だった本田先生と私は、令和型指導案の作成から本番の授業まで、お互いに切磋琢磨しあってきました。



「交流授業をして、お互いの教室の生徒をさらに成長させたい」

二人がそのように考えるきっかけとなったのは、第2クールにオンライン塾と対面塾の先生方と交流させていただいたことがきっかけです。

各々が真剣にレポートを書き、中間評価、推敲という **fine-tune** のサイクルを生み出し、真の学び合いへとつながっていきました。

渾身の力を込めて仕上げた成果物が、仲間のアドバイスを受けることによってより質の高いものに変わってく。

あの感動は今でも忘れません。

「これをお互いの教室の生徒同士が実践したら、どのように成長していくのだろう。」

本田先生も私も期待で胸が膨らみました。

4月に入り、本田先生と私は定期的にオンライン会議をするようになりました。

生徒たちの出会いが「レアリア」となるように、交流授業までの道のりを細分化していきました。(B面にて詳述)

定期的にクラスの様子を報告し合い、生徒の作品があれば互いに見せ合う。

それがお互いの授業に反映され、生徒たちは驚くように成長していきました。

生徒たちは交流授業までにどのように変化していったのでしょうか。

### 3 修学旅行レポートの変化

4月中旬、修学旅行が2週間後にせまってきたある日に、私は生徒たちに交流授業の予告をしました。

「尚英中と私の親友の教室の生徒さんとオンラインで交流授業を行います」

生徒たちは初め半信半疑の顔をしていました。

「先生、それは本気ですか」

私は生徒たちに伝えました。

「福島の生徒と東京の生徒がお互いに、英語で修学旅行の思い出やコメントを伝え合えたら素敵だね」

それを聞いた生徒たちの目の色が変わりました。

交流授業では違う土地に住んでいる同級生が相手です。

修学旅行の行き先や英語の学習歴も違うため、相手の反応や理解をよく確かめながらわかりやすく伝える必要があります。

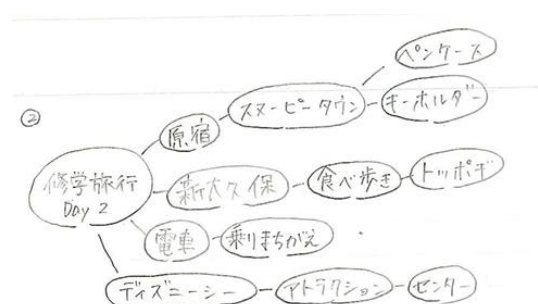
また相手のレポートを聞いて、すぐにコメントや質問をする力も求められます。

インフォメーションギャップが生まれ、生徒たちにとってチャレンジングな活動になります。

生徒たちは、「緊張する」と言いながらも目を輝かせていました。

GW明け、修学旅行を終えた生徒たちは本格的に修学旅行のレポート作りを始めました。

まずは、各々が伝えたいことをマッピングで整理し、口頭で伝える練習をしました。





あるペアは次のような目標を立てて練習を行っていました。

・相手意識  
・わかりやすく  
・おもしろみ  
・読みたい、聞きたいと思わせてもらえる

この中で、多くのペアから振り返りで出ていた言葉が「相手意識」でした。

クラスメートではなく、「違う土地に住んでいる同級生」が相手になったことで、これまで以上に練習に熱が入りました。

尚英中の生徒たちは次のような振り返りをしていました。

(Kさん)

修学旅行レポートをおもしろく  
伝えるために、その時の気持ちを  
入れたい。

(Sさん)

レポートとレポートの発表のし合いで、一方的に自分の事しか  
しゃべっていないかや、質問文をいれているか  
確認しました。

「相手意識」を強く心がけていたのは飛鳥中も同じでした。

(Sくん)

やはり修学旅行をいかに楽しんでいるか、どんな楽しさか想像  
しづらいと思うから、できるだけ想像しやす表現や、五感を  
表現を入れたほうが良いと気付いた。

(Hさん)

「どうすれば相手の話に興味をもてるか、どう話せば相手に伝わりやす  
かを考えよう」。



口頭練習が終わると、本格的にレポートの下書きが始まりました。

下書きをしている生徒たちの口からは次のような言葉が多く出てきました。

「この表現、飛鳥中の生徒さんに通じるかな」

「このレポート、興味を持って読んでもらえるかな」

生徒たちはお互いにアドバイスをしながら、原稿を書き上げていきます。

クラスメートとお互いの原稿を読み合い、何度も推敲を重ねていきました。



From April 24 to 26, we went to Tokyo and Kamakura for school trip.

I was looking forward to school trip because it was my first time to go to a far place with my friends. I was the most fun on the second day.

Which did you enjoy the best of the three days? I would like to tell you about my memories of the second day.

In the morning, our group visited Shinjuku and Harajuku. We took a lot of pictures in the photo sticker booth in Shinjuku. I wanted to take a picture there with my friends. So, I was very happy. After we took a picture, we had a lunch in "POMPOMPURIN Café". Do you know "POMPOMPURIN"? It is a famous character. We ate a cute food at a cute café. When we have a lunch, we were surprised! There was Mr. Kijima there. He was the only man there.

~~We were surprised and laughed.~~ I ate owenice rice shaped it character.

In the afternoon, we enjoyed visiting "Tokyo Disney Sea." I've never been there with my friends. So, I was glad that I was able to visit there. We tried five attraction. Especially, I enjoyed "Tower of Terror", the best. It was very scary, so we held hands.

Did you try it? We didn't have dinner because we tried a lot of attraction.

So, we ate a lot of snacks while talking in hotel at midnight.

I'll never forget the trip and I spent enjoy time with my friends.



From April 24 to 26, we went to Tokyo and Kamakura for school trip. I've never been to go to Tokyo, so I was looking forward to the school trip. Now, I would like to tell you about my memories of the school trip.

- On the second day, we visited Tokyo. The rain stopped and it was a hot day. First, we went to Shinjuku. We were going to eating while working, but I wasn't hungry. So I only had the cheese burger. It was so delicious!!!

- After that we went to Harajuku. There were many people there. We went to Snoopy Town and Chitona Land for shopping. I bought a Snoopy key chain and a pencil case!

- On the way to Disney Sea, we took the wrong train and ended up in Yokohama. We went into Disney feeling sad, because our teacher was angry with us. But, we enjoyed a lot of attraction, and felt happy! Especially, I enjoyed the Center of the Earth. Have you ever tried it? After riding the attraction, my friend said, "I was scared", but I was not scared.

- If I had more time, I would liked to see the show. I reached the hotel at night. I enjoyed "RENT-A-LICE" and talking with my friend until late. When teacher came, we pretended to be sleeping. The second day was the most memorable day.

原稿がある程度完成してきたところで、私は次の仕掛けを生徒にしました。

「飛鳥中の生徒さんに興味をもって読んでもらえるように修学旅行の記事を書いてみよう」

狙いは2つありました。

- ①無地のノートに自由に記事を書くことでこだわりを生徒にもってもらおう。
- ②本田先生や飛鳥中の生徒に記事を読んでもらうことで、モデリングになるようにする。

ノートに原稿を書くだけでは、生徒たちの創造力は十分に発揮することはできません。

無地のノートに自由に表現させる。

優秀作品を評価してもらい、廊下に掲示をする。

この過程を入れたことで、学年内で学び合いが始まりました。

モデリングとなる作品を一つだけ掲示し、それに刺激を受けてさらに作品を改良してく。

交流授業を意識しただけで、生徒たちがどんどん変わっていく。

特に成長していったのは、これまで書くことに苦手意識があった生徒たちでした。

(尚英中 H くん)

相手に伝わりやすいようにどうやって文を作ればいいのか  
考えたり、ペアや相手の文で使う表現を自分に  
取り入れることで、新しい学びや、気づきがい  
あった。

(尚英中 S くん)

お互いのレポートだったり仲間のレポートを見て表現の  
仕方だったりとか面白い事など書いて自分もそうすれば  
良かった人などかを思いました。



(尚英中 K くん)

モデル文中に書きた、大事なと思った、いいなと思った  
表現を取り入れたこと

(尚英中 H くん)

まわりの人の いい書き方や どういうふうに書けばいいのか見て学んだ  
自分のレポートを何度も読んだ。

「伝えたい相手がいる」

生徒の「主体性」を伸ばすするには私たちがレアリア(=本物の状況)を用意することが何よりも必要なのだと確信しました。

私はここで塾での学びを回収することができました。

途中の段階で自分の現在地を知り、よいモデルに触発された場合、人間はパッとスイッチが入り、一気にこだわりを持って取り組むようになり、質がみるみる高まっていきます。(塾長)



こうして完成した修学旅行レポート、廊下に貼られた作品の周りには、生徒が集まる日々が続きました。

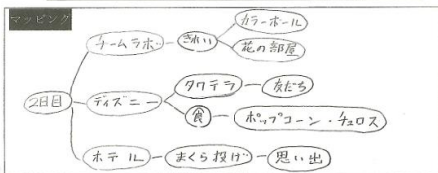
(作品を鑑賞しコメントし合う尚英中の生徒たち)



(ある生徒の作品)



修学旅行レポート最終原稿（東京都北区立飛鳥中の生徒に向けて）



レポート

I'll tell you about my wonderful school trip.

The second day, was more attractive than the other days.

In the morning, we went to "team lab".

I was very surprised, because it was fantastic!

My favorite room is color hall room and flower room.

If you like fantastic space you should go there!

In the afternoon, we went to "Tokyo Disney sea".

We rode on "Tower of terror" and "Raging spirits".

They were fun!

But, after we rode Tower of terror, my friend said,

"My body says it is fun, but my heart says I want to cry..."

Q What did we say to her?

My friend @ "OK...umm, let's ride one more time after the show!

Yeah!!!

Kurumi: "It is good idea!!! Let's go!!

We were crazy. Sorry Toiro...

After that, we ate popcorn and churros.

It was delicious! please try it!!

After we enjoyed Tokyo Disney Sea, we returned to the hotel.

What did you do at the hotel? We competed.

For example, we enjoyed pillow fight. It was very tired.

But I made good memories!!

All the best



#### 4 コメントや質疑応答の練習での学び合い

レポートを完成させてからは、「相手にわかりやすく伝える」「即興でコメントや質問をする」練習を行いました。

本田先生と練習方法のアイデアを出し合いました。

特に意識したことは、「伝え方」「内容」「即興コメントや質問」の3つでした。

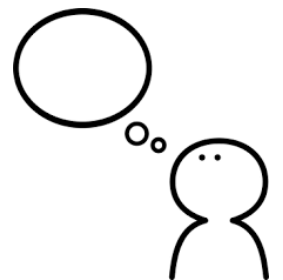
「伝え方」については、交流授業で画面越しに映っている相手のことを生徒たちは意識しました。

視線が下に落ちていないか、聞き手のペースに合わせて話せているか、難しい言い回しをしていないか。

生徒たちは何度も練習で確認をしました。

(尚英中 Cくん)

相手にどうわかりやすく、伝えようかとよく考えました。  
もとの文法や単語で難しいものがあるたら簡単にしたり  
伝えたいところを強調したり。いろいろな工夫をしました。



(飛鳥中 Nさん)

A.P.P.、B.P.P.、C.P.P.と練習したときは、自分はウラウラ話してただけで、視線とか考えていなかったけど、  
カメラで初めて撮るときは、話し方も視線もあまり相手に向いてないことが分かった。だからカメラ撮るときは  
自分で確認し、相手の視点に立つことが大切だと思えた。それと、表現の幅を広げよう。  
単語に言い換えがあるから、真似したいと思えた。  
標準的な中で

(飛鳥中 Yくん)

はじめは、いかにわかりやすく、コメントをするかにばかり、話し相手とどう  
つながっていたか。しかし、<sup>本田</sup>先生とのスローペースで、相手をまよがしなくコメント  
がけを付くことでも、質問を入れたり、よりわかりやすく、効果音を入れる  
ようになりました。

「内容」についても、自分の伝えたいことだけを話しては、聞き手は楽しめません。

お互いに異なった場所を訪問しているため、それを考慮する必要がありました。

特に、飛鳥中の生徒のアンケートからは準備の入念さが伝わってきました。

(尚英中 I さん)

準備しているときは、どんなことを取り入れれば  
相手に楽しんで聞いてもらえるかなど相手のことを  
考えて作られたと思います。コメントもたくさん練習  
したので前よりもコメントする力も増えたと思います。

(飛鳥中 S くん)

僕は尚英中の生徒のレポートを読んだときとても情景をイメージしやすいなと感じた。僕の作文では自分のことはわかり書いているが相手のイメージがつかないと思い、もう少し説明を加えるように意識した。スピーチで話す場所は相手の行ったことのない場所なのでそういったことも含めてうまく相手に伝わるようにしたいなと思て作った。



(飛鳥中 K さん)

その場所に行っていないと分からないような言葉を分かりやすく  
変換することがとても大切だと思った。  
言葉の変換は仲間のレポートから色々取り入れてかいた。

最後に、どちらの学校も一番入念に準備した「即興コメントや質問」についてです。

互いになじみのない場所や経験に対して即興でコメントをする。

相手の発言をマッピングで整理し、質問を考えている。

普段の学びがいかされる場面です。

本田先生とは事前にお互いの生徒の書いたレポートを送り合っていたため、お互いにアレン

ンジして、生徒にコメントや質問を作る練習を効率よく行うことができました。

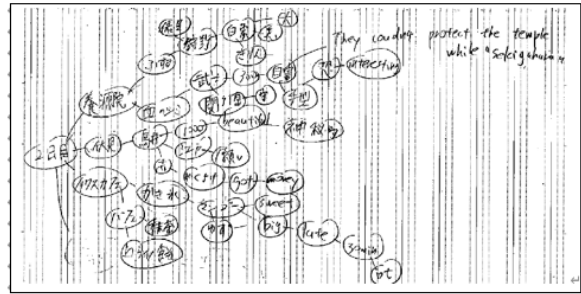
以下が、互いにアレンジして授業で使用したワークシートの一部です。

クラスメートが書いた原稿を読もう① □□□□□□□□



.. We went to school trip / from April 24 to 26. How was your school trip?  
 It was a lot of fun / because it was my first time / to go far (遠くへ) / with my friends.  
 Now, I would like to tell you / about the first day.  
 .. We visited Kamakura on the first day. Kamakura has a lot of historical buildings.  
 Our group went to Hase-dera temple, / one of the oldest temples / in Kamakura.  
 We watched some historical things.  
 If the weather was sunny, / I was able to see / a lot of beautiful nature / in Kamakura.  
 After we visited Hase-dera temple, / we went to Komachi-dori street.  
 Have you ever been to (これまでに行ったことはある?) Komachi-dori street? ※  
 We ate delicious food / and took a walk (散策をした) there.  
 Especially (特に), / I remember (覚えている) eating strawberry candy / because my friends  
 was struggling to (〜に苦戦していた) eat it. \*  
 The strawberry candy was very delicious / for me.  
 If you have a chance, / why don't you visit Kamakura, / and try eating strawberry?  
 .. We also had a good time / at the hotel, too.  
 We mustn't go out of the room, / when we stayed hotel / at night.  
 But / people in the opposite (反対の) room / were out in the hallway (廊下) / and they looked  
 interesting.  
 We laughed (笑った) a lot / to see it. I felt / that day was very short.

飛鳥中の生徒が書いた原稿①



I was looking forward to going on a school trip.  
 We went on a school trip to Kyoto and Nara from May 28 to 30.  
 We stayed for two nights.  
 On the first day, we stayed in Nara. We saw a beautiful lake from the hotel.  
 On the second day, we stayed in Arashiyama, Kyoto. We watched a Maiko's performance there. It was attractive.  
 How was your school trip?  
 The most memorable day for me is the second day.  
 Now let me talk about the second day of my school trip.  
 First, we went to Yougenin (養源院).  
 Have you ever heard of it?  
 It's a temple built in the Edo period.  
 I want to tell you two interesting points of Yougenin.  
 First, there are beautiful Japanese style doors (ふすまのこと).  
 White elephants are drawn on the door by Tawaraya Sotaro.

生徒たちは交流相手を想定して役割練習をしたり、コメントや質問をノートに書いて、お互いにアドバイスをしていました。

また、自分の書いたコメントを読んでほしいとノートを提出してくる生徒が急増しました。提出物を強制しなくとも、「伝えたい」という強い意志があれば、生徒は自ら行動することを学びました。

(尚英中の生徒のコメント練習より)

- ① Thank you for telling me your memories of the school trip.
- ② I have been to Nara with my family, but I forget to some memories. *don't remember well*
- ③ There are my pictures *ke* with deer. It was so *so* sorry. *私はその思い出を、お礼言っています。*
- ④ What do you think when you fed to deer?
- ⑤ We went to Kamakura for the school trip. Our group didn't see *the* buddha
- ⑥ We went to Hokaiji-temple. There are a lot of *flowers* and *natures*.
- ⑦ *They* are so beautiful! We took a picture there. (79)
- ⑧ その日は雨が降っていた。 *と言いたがたけど分らないです。*



コメントや質問をその場で言ったり書いたりする力は一朝一夕には伸びません。

生徒たちは交流授業に向けての準備の中で次のようなことを感じていたのです。

(コメントや質問の練習を通して生徒たちが感じたこと)

(尚英中 Cくん)

京省や奈良の観光地など何か来訪を予想して取り  
組むことができた。すぐにコメントや感想を言う  
練習をした。早く重要な言葉をマインドマップで練習  
をした。

(飛鳥中 Uさん)

準備期間では、事前に質問されそうな質問を自分で考えて、答えが  
おぼろげに準備をすることで本番のときに困らぬよう対応できると気づいた。  
私のレポートは、最初相手の問いかけがわからなかったが、川崎さんや他の友達  
のレポートは問いかけをたくさん聞いて、相手とコミュニケーションがとれるよう工夫していた  
のでそれを自分に取り入れた。

(尚英中 Hさん)

本番上手にできるようにたくさん練習して、自分も相手  
の言った事に対してすぐにコメントや質問することができて  
自分自身も成長できていたので、もと飛鳥中の生徒のみな  
さんのように上手にできるように努力したいです。

## 5 交流授業を終えて今後の課題

交流授業が終わったあとの生徒は、興奮冷めやらぬ状態でした。

「〇〇さんの発音がすごかったです」

「もっといろいろな人と話してみたいです」

「週に1回こういう授業をやってほしいです」

「即興のコメントがうまくできなかつたので、もう一度挑戦したいです」

生徒の口からこれらのコメントがでてきたことは、本田先生と本番に向けて計画を緻密に  
練っていったことが理由に挙げられます。



いきなり交流授業をしたら、生徒は緊張して上手く話すことができません。

また、相手の発言が自分ごとにならないことも考えられます。

事前に英詩や手紙を送り合いお互いのことを知ったことで、生徒のやる気に火がついたの  
でした。(B面にて詳述)

本田先生と私は今回の交流授業で一つの答えにたどり着くことができました。

「同じ教科書を使って、同じような学習歴がある。そんな教室の生徒同士がつながって授  
業をしたら、それがレアリアになるね。」

真剣に考えたことを、違う土地に住む同級生と英語で伝えあう。

それだけで生徒たちはこれほどまでに夢中になることを私たちは実感しました。

まさに生徒たちにとって本物の「目的・場面・状況」となったのでした。

学びを自身の学級だけでとどめるのではなく、勇気を出して他の教室とつないでみる。それ  
によって生徒たちの「主体的に学習に取り組む態度」に変化がもたらされたのでした。

飛鳥中の生徒さんの感想を紹介します。

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ(自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンライ  
ンで実施する)からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか?

先日はありがとうございました。尚英中のみなさんの英語力の高さ  
にも驚かされたのですが、僕が特に感心したのは、自らコミュニケーション  
をとり、いこうとする積極的な姿勢です。機材トラブルやシステムの変更など  
様々なトラブルがあつた中でトークがスムーズに行えたのは、ひとえにみなさんの  
その姿勢のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。短い  
時間ではありましたが、みなさんのお話を聞くのはとても楽しく、自分自身の成長  
にもつながる有意義な時間を過ごすことができました。少し先の話には  
なりませんが、次のオンラインディスカッションも今から楽しみにしております。  
そのときはお手柔らかに!お互いに楽しい時間をたせるようにしましょう!

一方、交流授業を行うことで、必ず自身の授業の弱点が見えてきます。

生徒が記述アンケートで述べていた弱点は、まさに私たちの授業を評価するものであると  
考えています。

尚英中の生徒は、まだ即興のコメントや、疑問文で相手を巻き込むことに自信を持つこと  
ができていません

即興で相手に質問をする(が出来)でき  
なかつたので、もう一度できるから即興で質問を  
できるようにする

すぐにコメントを返したり、質問に答えられない  
ことがあったため、コメントの練習と、QAの  
強化をしてからもう一度挑戦したい。

コメントがあまり出来ていなかったからもう一度  
できるようにコメントをしっかりと言いたいです。

その場でレポートを開き、その感想を言うことは  
練習よりも難しく、緊張でどもってしまうこともあり  
ました。もう一度あるなら、感想のパターンなどをもち  
考えてから挑みたいと思いました。

即興のやり取りを指導する際に、私はインタビューマッピングを取り入れてきました。

これによって生徒は様々な疑問文の作り方を学んだと思い込んでいました。

しかし一部の生徒ができるようになったと錯覚していただけで、多くの生徒を見逃してい  
たのかもしれない。

モデリングや中間指導がクラスの全員にとって有効なものであったかと聞かれば、まだ不十分なところも多くあります。

2学期はディベートを題材に、飛鳥中と交流授業を行います。

その際、生徒には更なる質問力や即興性が要求されます。

本田先生と私は以下の2つのことを実践し、生徒の更なる成長をサポートしていきます。

#### ①リレーノート(オンラインドキュメント)でお互いの教室をつなぐ

生徒が自己決定した話題でやりとりを続けていけば、即興で意見やコメントを書くことも苦になりません。

生徒はやりとりを楽しみながら力を伸ばしていくことができます

#### ②定期的にオンラインで教室をつなぐ

今回の交流授業で、お互いの教室をつないで授業する感覚をつかむことができました。

B面の本田先生のレポートにあるように、様々なトピックで話した経験が生徒の自信につながっていきます。

オンライン授業を特別なものとして捉えるのではなく、特定の練習の時間につないでお互いを高めていくことにも応用することができます。

## 6 おわりに

中嶋塾を卒業する間近に、「成果物は何のためにあるのか」という質問の謎解きをしました。今でも中嶋先生がおっしゃっていた言葉を忘れません。

「成果物は誰かの幸せを考えながら作るもの」

「成果物は次の世代への贈り物として、毎年改良を重ねていくもの」

成果物はすべて人の幸せや人の成長のために作っていくものだと私は学ばせていただきました。

生徒の感想の中から、人を思いやる言葉、誰かに感謝をする言葉が出てきたことが、

この交流授業を通しての一番の収穫であったと考えています。

交流授業をすることは、自身の教室の実態をさらけ出すことになります。

しかし、パートナーと入念に準備をして交流授業を迎えるようにすることで、「理論武装」ができるようになります。

それこそが令和型指導案を作成する際に学ばせていたことだと考えています。

交流授業を一過性のものにするのではなく、学びを教室外に広げ、生徒の主体性を高めていく有効な手段として、今後も続けていきます。

B面では本田先生が、今回の交流授業の舞台裏について詳述していきます。